

令和2年度学力向上推進計画

「書く力」の育成を軸とする学力向上の取組

亀山市立神辺小学校

I めざす子ども像

<自ら学ぶ子ども>

- ・学習に意欲的に取り組み、進んで問題を解決しようとする子
- ・相手の話に耳を傾け、深く考え、自らの思いや考えを表現できる子
- ・心の豊かな子ども
- ・なかまを大切に、共に高まろうとする子
- ・郷土の良さをみつめ、美しいものや自然に感動する子
- ・心身ともに健康な子ども
- ・命の重さを知り、自他を尊重する子
- ・働くことに誇りや喜びをもち、進んで役立とうとする子

II 子どもたちの学力や学習・生活の状況等

<学力に関して>

国語科では、資料などを基に自分の考えをまとめて書くことや記載された内容を引用・取り上げて意見を記述することなど、条件に合わせて記述することに課題が見られる。

また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」特に漢字の読み・書きに関する心配も大きい。同音異義語についての誤答が多い傾向にある。

算数科においては、「数と計算」「図形」「数量関係」の領域の落ち込みが大きかった。既習事項を活用して求積をしたり、百分率の問題を解いたりすること、また、自分の考えを説明する記述式の問題について課題が依然として残っている。

<学習・生活の状況に関して>

家庭におけるテレビやビデオの視聴、テレビゲーム、スマホの操作など、児童が画面を見ている時間が長い傾向にある。そのため、関連して平日、休日における家庭での学習時間は短い。経年において同様の結果であった。

算数少人数指導への肯定的な回答は高い。「少人数・習熟度別の授業はよくわかる」については、肯定的な回答が10P程度上昇し、特にトップアンサーの伸びが大きかった。少人数での学習を行っていることで、個に応じた指導が浸透してきている。

III 指導改善のための計画（ポイント）

<学力に関して>

- 1 見通しの持てる授業の実践
- 2 基礎・基本的事項の確実な習得
- 3 既習事項の繰り返し学習する機会

<学習・生活の状況に関して>

- 1 基本的な生活習慣の確立
生活チェック強化週間の取組
- 2 家庭学習の充実
「家庭学習の手引き」の改訂
週末読書の取組

IV 具体的な取組

<確かな学力を身につける授業の改善>

- 1 見通しの持てる授業の実践
 - ・「めあて」の提示から「ふり回り」までの授業スタイル確立
 - ・「めあて」「ふり回り」の改善(目標の明確化と評価) 本時の目標を明確にした「めあて」と学んだことが子どもの言葉で表現された「ふり回り」
 - ・記述や説明など教科の目的を達成するための言語活動 算数など、**教科の目標を達成するために必要な言語活動(考えを記述・説明する・検討)**を確実に授業の中に導入する。
 - ・「ふり回り」を記述することで、**書く活動の日常化**。
- 2 算数科 きめ細かな指導の充実
 - ・習熟度別少人数指導を生かした個に応じた指導
- 3 地域・家庭と教育の目的を共有し、地域にある課題を解決する総合的な学習に力を入れる。

<組織的に取り組む学校体制の確立>

- 1 基礎・基本的事項の確実な習得(既習事項を繰り返し学習する機会の保障)
 - ・スキルアップタイム **言語事項の習得**
既習の言語事項について、繰り返し学習する機会を保障
漢字自作プリントによる既習漢字の習得の徹底
 - ・算数カルテを用いた**確実な算数補充学習**
児童の弱みを過去に遡って調査。弱みの最初から順に補充学習を実施。金曜スタディでは、丸付けはボランティアに、個別の支援は教員が行っている。
- 2 学習部を中心とした取り組みの検証
 - ・三重スタディチェックの再活用による検証
 - ・生活チェックによる基本的な生活習慣などの調査

<指導力を高める研修の推進>

- 1 全教職員でスタディチェックを採点・分析することで、子どもたちの強みや弱みを共通理解し、指導に役立てる。
- 2 **管理職が日常的に授業観察**を行い、学校の授業改善方針に沿った授業が行われているか点検・指導を行う。
- 3 年間3回の授業研修とは別に、自主的な公開を促し、互いの授業や取組を「見える化」することで、指導力の向上を図る。
- 4 **プログラミング的思考を取り入れた授業づくり**を研究し、亀山中学校区をはじめ、市内各校に研究成果を発表する。

<家庭・地域との連携の強化>

- 1 学校運営協議会を通しての連携
 - ・学力保障の取り組みについての検討
 - ・地域コーディネーターによる学習ボランティアの配置
- 2 家庭への適切な情報提供・家庭学習の充実
 - ・学校よりなどでの適切な情報提供・協力依頼
 - ・テレビ・スマホ・テレビゲームなどの使用に関する情報を保護者に提供し、基本的な生活習慣の確立に向けて連携する。
 - ・「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習の中でも特に「ワークシート」の取り組みについて、もれなく行われるよう保護者に協力を求める。
 - ・PTA総会や学年行事などの機会に、校長から保護者に対して、学力の状況や学校の取組を丁寧に説明し理解を求めるとともに、家庭での学習の仕方や読書の必要性などについて説明し、学力保障への協力を得る。